

【自然環境】

硫黄島は竹島、黒島とあわせ、上三島（鹿児島郡三島村）を構成し、その真ん中に位置する。鹿児島からはフェリー「みしま」でおよそ4時間かかり、なんといっても褐色の海がとても印象的な島である。

自然については、活火山である硫黄岳や、市内では見ることのできない星空がとくにきれいだった。島には野生のクジャクが生息し、住宅の近くまでやってきていた。僕たちは、最終日に、まれにしか見ることのできない白いクジャクも見ることができた。

気候は、一日中、半袖で過ごせるくらいの暖かさであり、少し運動すると汗がでてくるくらいだった。

【社会的背景】

人口は114人、世帯数は61世帯（2010年2月1日）であり、実習中にお会いした人たちは若い方々が多く、子供も20人くらいはいた。

産業は特に竹林と椿林が目立っていた。椿の実を絞って作る椿油や、椿油を使った石鹸、シャンプー、リンスが、村の特産品として販売されているらしく、民宿にも椿のボディソープが置いてあった。

【住民の生活】

島には市内のような娯楽施設がないので、住民は遅くまで起きていない。

ジャンベという西アフリカの太鼓が一部の若者の間で楽しまれている。フェリーが硫黄島に入港する時と出港する時にはこの太鼓の音が聞くことができた。僕たちもジャンベの太鼓に合わせたダンスに参加させて頂いた。ジャンベに合わせたダンスはとても独特のリズムで難しかった。

【医療供給体制】

僕たちが歯科のユニットを設置した公民館の中には、診療所のようなところがあった。歯科の患者さんでは、小児の齲蝕が多かった。ほとんどの小児で定期検診に来た際に齲蝕が見つかった。

【実習概要】

日付	内容
10/6	鹿児島市内→硫黄島 ・ユニットの組み立て ・午後 診療
10/7	午前、午後 ・診療見学 ・小児向けの歯磨き指導（染出し液を用いて）
10/8	午前、午後 ・診療見学 ・ユニットの片づけ
10/9	硫黄島→鹿児島

【振り返り記録】

今回の離島実習を通して、島での歯科治療の大変さと重要さを学んだ。それとともに、島の人たちの明るさや島での生活の楽しさに触れることができた。

歯科治療の大変さとしては、巡回診療であるため器具や薬が限られており、その中でいかに患者さんを喜ばせてあげられるかということが勉強になった。また、島の方は歯科治療のために、鹿児島市内に4時間もかけていくようなことはとても不便なので、一年に2～3回でもこのような機会があるととても助かるのだろうと思った。

島の人たちは明るくフレンドリーで、朝に島を散歩していると声をかけられたり、あいさつされることも多くあった。

3泊4日という短い期間であったため、島の人たちがどのような生活を送り、生きがいとしているのかを把握することができなかったことが少し心残りであるが、その短い期間の中でも貴重な経験をたくさんさせていただいたので、充実した離島実習になったと思う

